

月報 蕨の教会 日本聖公会 川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町 2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056
http://www.kawagoe-seikoukai.org/ (編集) 文書部 ルカ 野澤 達也

2022 年度宣教テーマ 「わたしの家はすべての民の祈りの家 (聖書) — 煉瓦の聖堂 100 周年 —」

困難の先に

2022年クリスマスメッセージ
司祭パウロ鈴木伸明



新型コロナウイルス感染症の影響を受けてから3回目のクリスマスを迎えることとなりました。マスク着用を励行しているのは日本だけだとか、他国ではもう新型コロナウイルスとインフルエンザを同一視しているとか言われていますけれども、感染者が十分減少したとは言えない中、第8波が来るなどと言われ、私たちはなお不安の中の日々を余儀なくされています。

さて、日本は世界屈指の迫害国であることはよく知られていますが、それは隠れ切支丹等に代表される豊臣秀吉の二十六聖人殉教から、世が明治となり、キリスト教禁教高札撤

去までの期間を指すことが多いです。しかし日本の迫害は、禁教が解けた明治時代も続きました。

自分の先祖の話で大変恐縮ですが、私の曾祖父である執事永田保治郎は、ウィリアムス主教から堅信受領の後、自給伝道を志願、福井県の敦賀で伝道活動を開始しました。敦賀は本願寺の米蔵と言われる仏教の町で、キリスト教に対する抵抗は強く、祈祷集会を行うと戸外から悪言罵倒の声が絶えなかったといえます。それでもキリスト教を信じる人々が与えられ、1889年9月28日、待望の教会堂を完成させることができました。

ところが午前10時に献堂式を始めるや否や、敦賀の各寺院の僧侶たちが結成した仏教大同団が「邪宗門耶蘇教退治」の看板を手に教会堂を取り囲み、石を投げ始めました。教会堂の窓戸は破られ、教会堂の中にいた人々は外に出ることもできず、聲を取り起こしてかろうじて身を守りました。報を受けて駆け付けた警察官もなすすべを知らず呆然と立ち尽くすだけであったといえます。迫害は夜になっても続き、仏教大同団が集めた壮士たちが漁業用の大綱をもって教会玄関の柱に結びつけ、掛け声と共に引き倒してしまいました。次にその柱を使って教会堂の戸を突

き破り、教会堂は見る影もない姿になるまで破壊されてしまったのです。ついに検事が出張して警官に抜剣を命じ、ようやく暴徒は鎮圧されました。近隣の人々は恐れと危険を感じ、教会活動を差し控えるように要請したため、敦賀での伝道活動は時間が来るまで中止されることになったのです。

この2000年の世界歴史で多くの迫害があったものの、キリスト教が消えてしまうことはありませんでした。迫害で失われた命を超えてキリスト教は受け継がれていったのです。

今回のコロナウイルスで、私たちと信仰生活を共にする大切な兄弟姉妹が大きな影響を受け、神様に召された方もおられます。今年ほど大きな悲しみと不安の中でクリスマスを迎えることはないと言って過言ではないでしょう。

キリスト教の喜びは、悲しみと無関係の喜びではなく、悲しみと表裏一体の中でもたらされる希望と喜びです。悲しみと表裏一体とは不思議ですが、ここにこそ神様の御心と真実があると、歴史の中で働かれた神様が私たちに語っています。悲しみと不安を忘れず、神様の喜びと希望をしっかりと求めて、このクリスマスと共に迎えたいものです。